

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|-----------|-------------------|
| 事業所番号 | 2472900345 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 洗心福祉会 | | |
| 事業所名 | 認知症対応型グループホーム真珠荘 | | |
| 所在地 | 三重県志摩市阿児町字小入口3503-10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年7月22日 | 評価結果市町提出日 | 平成 23 年 10 月 14 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472900345&SCD=320&PCD=24 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 | | |
| 訪問調査日 | 平成 23 年 8 月 11 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元保養所を利用した施設であり、緑に囲まれた環境の中で真珠荘のモットーである「ぼちぼちいこか」をご利用者様の個性を生かしながら実践している。生活の中に、買い物などを通じて地域との交流ができる場を設け、これまでの生活感を無くさないようにする支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くにゴルフ場のある静かな別荘地(保養所)にあり、全職員は「敬意をもって、個性を生かし、ぼちぼち」とを理念として、利用者の在宅での生活を大切にし、利用者が安全・安心して暮らせるよう職員一丸となって支援している。また、事業所は空室が出来たときにはショートステイも受け入れ、その後の入居にもつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「敬意を持って、個性を生かし、ぼちぼちと」を独自の理念としており、お一人お一人のこれまでの生活を真珠荘でも出来るように支援し大切にしている。 | 理念を玄関などに掲示している。月一回の合同会議などで理念を確認し、理念を基に職員が一人ひとりの個性を大切にしながら利用者の支援を行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域自治会の清掃活動や、毎週の買い物、理髪容など地域の方々と交流できるように支援している。 | 地域の自治会に加入し、清掃活動には利用者と共に参加している。また、地域の婦人会の訪問(舞踊)や近くの保育所との交流もある。事業所の夏祭りには地域の住民の方々にも参加を呼びかけている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 志摩市で開催されている「ふくし桜まつり」に協力し相談や提案する機会をもっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行事報告や避難訓練の実施状況の報告を行い、参加して頂いている地域の方がたやご家族様に意見や、提案を頂き、参考にしている。 | 2ヶ月に1回開催されている。会議は利用者の家族、市職員、地域住民の代表などで構成されている。会議では事業報告や避難訓練の協力をお願いしている。また、会議で出された意見・要望は事業所の運営に反映されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業所が行う防災訓練に参加して頂いたり、市役所に出向いた時には、情報交換をしている。 | 市の職員は運営推進会議には毎回出席されており、事業所の避難訓練にも参加している。また、サービス事業者連絡会などでも交流を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修の場を持ち、身体拘束について理解し、日常の中で学び、ケアに取り組んでいる。玄関には施錠はしているが、いつでも一緒に外へ出ていけるように支援している。 | 身体拘束をしない研修も実施されており、外出をしそうな利用者がいたらさり気なく声掛けをしたり、職員が見守りながら安全面に気配りをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所内の会議で事例検討等を行い、防止につとめている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見制度で入所されておられる方を通して、学ぶ機会あり個々の職員が学ぶようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、契約書、重要事項説明書と照らし合わせ、疑問など聞きながら説明を行い、理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様が面会に来られた時などにお聞きした意見や要望は、合同会議で職員に提案し検討をおこなっている。 | 家族の面会時などに職員が相談を受けたり、運営推進会議での意見・要望を聞いている。受けた要望などは合同会議で検討し対応している。また、結果については毎月の通信でお知らせしている。玄関には意見箱も置かれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の合同会議や全体会議で意見、要望を聞き、検討を行っている。 | 毎月1回の合同会議(デイサービスとグループホーム)や2ヶ月に1回開催される法人全体の会議(勉強会が主)で職員が講師を務め、意見・要望を聞き検討をしている。会議は発言のしやすい雰囲気である。 | 自己評価に対する職員の意見も取り入れて、利用者への支援のさらなるレベルの向上を期待する。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人諸規定(給与規定・服務規程)に基づき、年度初めには、法人の全体会議を持ち、全職員に規程の変更や留意点等を周知している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 生涯研修課程への参加や法人独自の委員会による研修会の実施、事業所単位での勉強会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | サービス事業者連絡会へ参加し、他の施設の方との交流、意見交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 職員が直接面接を行い、ご本人の意向を傾聴し、連絡先も伝えていつでも相談して頂けるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 職員が面接に赴き、ご家族の意向をお聞きし、相談して頂けるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容に加え、主観的、客観的立場に基づいた判断の元、担当ケアマネージャーとの話し合いで最も必要なサービスを検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者の経験や知識をお聞きし、手芸、野菜作り、清掃に職員と一緒にいき、生かしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々の生活の報告や、受診内容の報告など、必要時に連絡し、面会や外出、外泊を促している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地元の病院への受診や、祭りへの参加、ご本人の希望を聞き、外出支援を行っている。遠方の方へは、電話にて会話を持っていたくようにしている。 | 本人の希望を聞き、地元病院への受診や地域の祭りへの参加、馴染みの美容院など外出支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲の良い方、そうでない方とそれぞれであり、職員が誘導し会話や作業に参加させていただけるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 転居先の施設への訪問を行い、関わりを持っていけるように取り組んでいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活からご利用者の意向や思いをくみ取って買い物に出かけたり、住み慣れた地域へ出かけたりしている。 | 日ごろの生活の中で、会話や動作などで利用者の思いや意向を把握するように努め、支援を行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個別の記録に生活習慣や趣味など記録しており、職員全員が把握し支援に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中で、職員は観察を行い看護師やご家族と連携し、記録を行い申し送りを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族、ケアマネージャーから得た情報を元に会議を行い介護計画を作成している。 | 月2回のケア会議と合同会議で情報交換を行い、担当制になっているので、担当者が計画書を作成し、ケアマネージャーが確認をしている。作成された計画書を、家族にはその都度、面会時や送付したりして確認を取っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の様子や、心身の状況を記録し、職員は把握を行い、情報の共有をおこなって、介護計画作成に生かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 地域の行事に出かけたり、慰問やボランティアの受け入れも行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 毎週土曜日には、職員と一緒にスーパーへ出かけ、翌日の朝食用のパンを買うなどの買い物を楽しんでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にご本人やご家族と協力医療機関の説明を行い、希望される医院への受診をおこなっている。 | 利用者、家族の希望にそって受診先を決めている。通院介助は家族と職員で行っている。また、月1回の協力医の往診がある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤の看護師が、日常の健康管理を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族や地域連携室との情報交換や相談に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 日々の生活の変化から、重度化についてご家族との話し合いを設けて、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、同意を得ている。 | 終末期については、利用者や家族の安心と納得が得られるように話し合いを行っている。看取りについては職員に周知している。職員も出来ることはしたいという思いが強い。また、提携医とかかりつけ医の協力の同意を得ている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変した場合の対応は会議の中で学ぶ機会を設けている。安全衛生委員会を中心に研修会を開催し、職員全員が学んでいる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月、いろいろな場面を想定しての避難訓練を行い、年2回防災訓練を計画し、消防署立ち合いの元、地域の方の参加もお願いして行っている。 | 夜間想定も含め誘導訓練を毎月行い、消防署の指導のもと、デイサービスと合同で年2回の訓練も実施している。市の職員や地域の方の参加もお願いしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全体会議において、接遇研修を行い、職員全員で実践に取り組んでいる。 | 職員の言葉使いや接遇マナーは全体会議での研修で指導し、普段から利用者の対応に気を配っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者本位の会話に心がけ、悩みや希望や不満を聞いて”どのようにしていきたいのか”自己決定できる支援に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | メリハリのある生活を大切にし、希望や状態に合わせた個別の対応を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時にその日の洋服を尋ね、ご自分で決定し、用意して頂くように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご自分の茶碗やお箸、湯呑みを使い、食事の盛り付けや、味噌汁作り、後かたづけを職員と一緒にやっている。 | 食事前に健口体操と嚥下体操を行っている。職員と一緒に準備や盛り付け、後片付けなど利用者が出来る範囲で手伝っている。昼食はデイサービス利用者と一緒に、職員は食事介助をしながら一緒に食事をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事のメニューは栄養士が作成し栄養管理はバランス良く摂れており、時間を決め、入浴後や食事以外にも水分補給出来るようにしている。希望があればすぐに提供できるように用意はいつも出来ている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後には、介助や見守りにて口腔ケアの支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表や合図、パターンの把握を行い気づきを大切にし、職員は情報の伝達を行っている。 | 排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を積極的に行い、オムツからリハビリパンツ、さらに自立への移行支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の体操や腹部マッサージを習慣にし、水分補給には、心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 毎日入浴できる体制であり、心身の状況や希望に合わせている。 | 利用者の希望に沿い、午後2時頃から毎日入浴が出来るように支援している。機械浴は2名利用している。中には気のあったもの同士で入浴する利用者もいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自由に過ごして頂けるように支援している。天気の良い日には、布団を干したり、シーツを洗ったりと、ご利用者と一緒に行う様になっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の説明書きに留意し、内容の確認や変更時には看護師が行っている。職員は、服薬での状態観察や報告を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活の中で個々の役割が出来ており、職員はそれが継続できるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 地域の行事や祭り、必要物品の購入やパンの購入など希望や状況に合わせて支援を行っている。 | 毎朝一人ひとりに声掛けをして希望を聞いている。毎週土曜日には利用者の希望のものやパン(日曜の朝食用)の購入など外出支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物に出かけた時には、お財布をお渡ししており、ご自分で支払いが出来るように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご希望により、電話をかけていただいたり、いただき物をした時など、お礼の電話を入れ、会話をさせていただくようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 手芸や展示物の展示や季節の草木を活けたり、ゆったりとした空間の中でくつろげる雰囲気作りに取り組んでいる。 | 玄関を入ると手芸などの飾りが展示されている。居間、食堂は広く、中庭の木々が眺められ季節を感じられる。居室のある2階の廊下にはソファが用意され、利用者が団欒が出来るようになっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | いろいろな所に椅子やソファが置かれており、独りになられたり、DSのご利用者とお話しされたり、自由に過ごして頂ける場を設けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物を持ち込んでいただき、今まで生活してきたお部屋の様に安心して生活できる居室作りを行っている。 | 各居室(和室)にはベランダがあり、使い慣れた家具などが持ち込まれ、中には孫の写真飾ったりして思い思いの居室づくりがされ、利用者が居心地よく過ごせるようになっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 目印や動作説明で出来ることは多く、頼りすぎず、つかず離れずの関係を大切にしている。 | | |